

みそのばし 801

(御蔭橋 801 商店街振興組合)

京都府京都市

インバウンド

地域課題対応

若手・女性

生産性向上

ポイント

全ての人が快適に暮らせる「安心安全のまちづくり、福祉の街」を目指して、様々なアイデアを発信・実現する。

基本データ

所在地	京都府京都市北区大宮東総門口町
人口	約 12 万人（京都市北区）
電話/FAX	075-493-3733 / 075-493-3733
URL	http://www.kics.gr.jp/kita/801office/
会員数	95 名
店舗数	100 店舗（小売業 24 店、飲食業 14 店、サービス業 24 店、その他 38 店）
商店街の類型	近隣型商店街
主な客層	高齢者、主婦 / 60 歳代、50 歳代

商店街概要

みそのばし 801 は、京都市の北部、世界遺産として有名な上賀茂神社から鴨川に架かる「御蔭橋」を渡った先に広がる全長 800m の商店街である。周辺が田畑から閑静な住宅地へと変貌していく中、昭和 61 年に御蔭橋 801 商店街振興組合として設立。商店街の全長を表す「800」に「そこから未来に向かって一歩進む」という思いでプラス 1 をして「御蔭橋 801 商店街」と名付けられた。

子育て世帯や学生の単身者が多く居住しているが、一方で、古くからの住民の高齢化が進んでおり、来街者の中心は近隣に住む高齢者である。商店街は「安心安全のまちづくり、福祉の街」を目指して地域の憩いの場と絆づくりを進めている。

取組の背景

地域ニーズに対応した魅力あるまちへ

みそのばし 801 では、平成 22 年に来街者アンケート調査を行い現状分析と課題の抽出を実施した。安心・安全な買い物環境へのニーズが高かったことから、LED 街路灯や足下灯、防犯カメラの設置などを行い、小さな子どもから高齢者まで全ての人が安心して安全に買い物ができる環境を整えた。

この取組と連動して、来街者の 4 割を占める高齢者に特化したニーズを抽出するため、平成 23 年には地域の高齢者団体や町内会などと「優しい御蔭橋商店街づくりについての意見交換会」を実施。

「地域の高齢者が気軽に集える場所が必要」との意見などを受け、地域コミュニティの構築・強化を図るため、商店街のコンセプトである「安心安全のまちづくり、福祉の街」としての取組をさらに推進していこうと考えた。

取組の内容

コミュニティ施設の設置と買い物支援

商店街は、来街者の中心である高齢者層のニーズを充足し、商店街のコンセプト「安心安全のまちづくり、福祉の街」としてのさらなる活性化を図るため、商店街内の空き店舗を活用し、コミュニティ施設を設置することを決めた。

国や京都府、京都市からの補助を受けて整備した

コミュニティ施設「801 広場」は、商店街のほぼ真ん中に位置する。運営に当たっては、京都産業大学や社会福祉協議会、地域住民などの協力を得て、カフェの運営や商店街マスコットキャラクター「801（やおい）ちゃん」グッズの販売のほか、習字、将棋、フラダンスなど主に高齢者向けの教室や食事の提供などを行っている。

また、毎週火曜日の放課後には将棋倶楽部のメンバーが子どもたちに将棋を教えており、「ガラガラ抽選会」や「ビアガーデン」など商店街イベントの会場としても活用されているなど、地域住民が憩い集える交流の場として親しまれている。



「801 広場」でのガラガラ抽選会



「801 広場」前でのビアガーデン

教室の参加者は 1 日 200 円程度の参加費を支払う仕組みで、毎月 5 万円～6 万円の収入があるものの、「801 広場」の運営には月額 11 万円の家賃に加え光熱費が毎月 2 万円程度必要になる。収入と支出の差額については商店街組合費で負担となるが、「福祉の街」という商店街のコンセプトに照らし、参加者の利用料は値上げせずに運営を続けている。

この取組に加えて、平成 25 年度からは、買い物支援事業を実施。高齢者や身体が不自由な人を対象に、代わりに買い物をして商品を自宅に届けたり買い物に同行したりする暮らしの「お手伝い」を 1 回 500 円で請け負っている。なお、これらの買い物代行や同行サービスの内容が目の不自由な高齢者などにも理解しやすいよう、文字の大きな「おかいものマップ」を作成し、取組の周知を図っている。

月に 20 回程の利用があり、地元住民のニーズを満たす事業として地域の暮らしを支えている。



買い物代行・同行の様子

取組の成果

歩行者数は倍増、インバウンド対応にも意欲

「801 広場」の年間利用者数は約 4,000 人。地域住民はもちろん、口コミなどで評判が広がり遠方から参加する人も多い。歩行者通行量も、「801 広場」を整備した平成 23 年には年間 44 万 7,855 人であったが、平成 27 年には年間 89 万 8,630 人と倍増した。

さらに、これらの商店街事業を再評価するため、2 度目の地域活性化法認定を視野に入れ、平成 28 年度(株)全国商店街支援センター事業(支援パートナー派遣事業)を実施。専門家を交え、地域住民アンケートを行い商店街へのニーズを再整理したとこ

ろ、地域住民だけでなく、観光客をも引きつける取組が求められていることが明らかになった。

商店街は世界遺産の上賀茂神社に隣接しており、すぐ近くまで来ている外国人観光客を商店街の顧客として取り込んでいくため、今後の取組として、Wi-Fi 環境の整備や地域の特産品を活かした商品開発、多言語対応の店舗マップの作成などを計画しており、インバウンド対応事業にも積極的に取り組んでいく予定だ。

実施体制

商店街においては、理事長が全体を統括し、事業ごとに副理事長をリーダーとしてプロジェクトチームを編成し、地元大学や社会福祉協議会などの地域団体とも連携している。

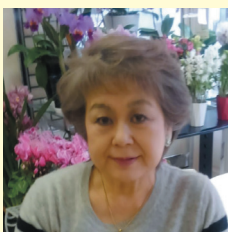
「801 広場」整備や買い物支援事業のほか、イベントも数多く実施しており、特に毎年秋に開催する「みそのぼし 801 フェスティバル」では地域の保育園や小中学校、高校、大学の学生が 10 年以上にわたって出演を代々引き継ぎ、地域の絆を深めている。



商店街キャラクター「801 ちゃん」とみそのぼし 801 フェスティバル

京都府・京都市と連携して各種補助制度を有効活用しているほか、それらの事務処理にあたっては京都府商店街振興組合連合会による支援を受けるなど、様々な団体との連携体制が整っている。

キーパーソンからのコメント



御園橋801商店街振興組合理事長 田中 美保子

“人に優しい街づくり”を目指して

商店街が位置する地域は、高齢者や独居老人が多く、閉じこもりがちの高齢者を一人でも多く外へ連れ出し、おしゃべりをしたり、物を作ったりして“ひとりぼっちをなくす”“独居世帯を知る”、また気軽に立ち寄れる居場所づくりの思いから「801広場」を立ち上げました。

地域のボランティアの先生方の指導のもと様々な教室が立ち上がり、囲碁・将棋クラブは、商店街代表で大会に出場し、また子ども将棋クラブを開設するなど、これからも地域の核として高齢者や子どもたちの憩い・集える居場所として頑張ってまいります。

地域に愛される“福祉の街 みそのぼし”の推進

これから増々高齢化社会となり、地域住民が互いに助け合い、声を掛け合って見守っていかなければならないと思います。

そのためには、教室以外に高齢者や地域住民の協力のもと献立をたて、地域農家の食材の提供を受けて高齢者と子どもと一緒に食事を作り、食べる場所としての広場の運営や、地域包括センターなどとの連携を密に取り、認知症に対するセミナーの開催など、地域住民の方々が少しでも楽しく生きがいを持って、安心・安全に暮らせるまちづくりを目指していきたいと思っています。